

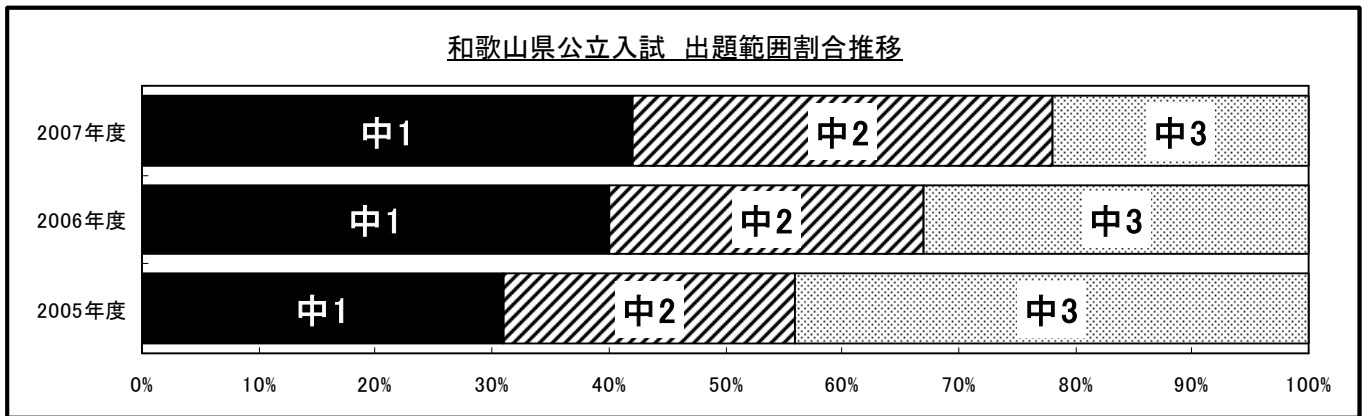
1. 大問別出題内容の変遷

	2005 (平成17) 年度	2006 (平成18) 年度	2007 (平成19) 年度
1	独立小問集合	独立小問集合	独立小問集合
2	独立小問集合 (関数, 確率, 方程式)	独立小問集合 (関数, 確率, 方程式)	独立小問集合 (関数, 確率, 方程式)
3	規則性 (文字と式)	規則性 (文字と式)	規則性 (文字と式)
4	平面図形 (内角の和)	2次関数	1次関数
5	2次関数	空間図形 (合同, 三平方の定理)	平面図形 (平行四辺形, 相似)

2. 小問数の推移

2005 (平成17) 年度	2006 (平成18) 年度	2007 (平成19) 年度
20問	25問	27問

3. 出題割合の推移



4. 出題傾向分析と対策 昨年との問題レベル比較→やや易化

傾向	大問の1番と2番が例年独立小問集合となっている。1番は平易な問題が多い。例年規則性の問題が出題されており、問題文の読解、文字を使って表すこと、図形的感覚等を試す問題となっている。関数は1次関数または2次関数の出題がある。図形はやや考えさせる問題ではあるが、日々の勉強の延長線上としてとらえられる。ただ、思考力を養う問題の演習はしておく必要がある。
対策	独立小問の1番は平易だがミスのないように練習量をきっちりとっておきたい。規則性の問題は問題文をじっくり読んで書いてある内容をしっかりと把握する練習が必要。文章の長さにとらわれずに考えを進めていける問題の量を増やすことが大事。関数は1次・2次ともにその特徴等を理解し応用問題レベルまでの理解が必要である。

5. 本年度入試の注目問題

平行四辺形になるための条件, 等積変形, 相似

5 下の図1, 2のように, $\triangle ABC$ の辺上に, $BD=CD$ となるように, 点Dをとる。

次の〔問1〕〔問2〕に答えなさい。

〔問1〕ADを延長した直線上に点Eをとり, 4点A, B, E, Cを結んでできる四角形ABECが平行四辺形になるようにしたい。Eの位置をどのように決めればよいか, 説明しなさい。

〔問2〕図2のように, BC, AC上にそれぞれ点F, Gをとる。線分FGが $\triangle ABC$ の面積を2等分するとき, 次の(1), (2)に答えなさい。

(1) $AF//GD$ であることを証明しなさい。

(2) $BC=18\text{ cm}$, $AC=8\text{ cm}$, $DF=3\text{ cm}$ であるとき, AGの長さを求めなさい。

図1

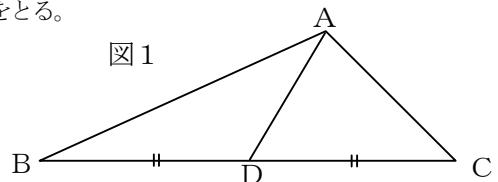
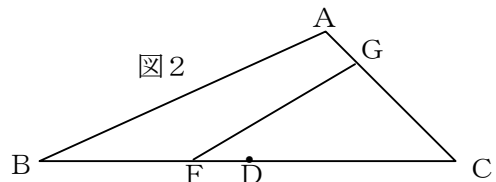


図2



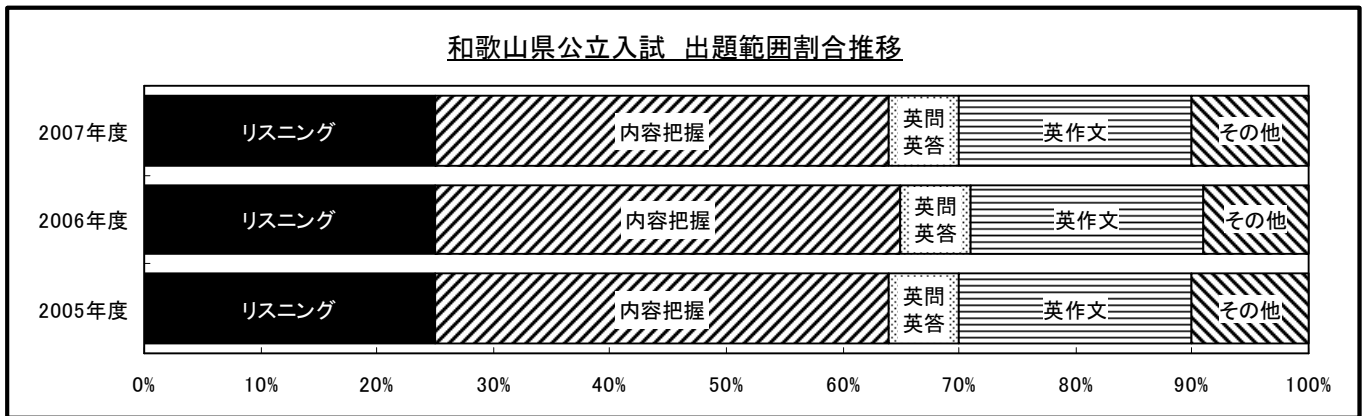
1. 大問別出題内容の変遷

	2005 (平成17) 年度	2006 (平成18) 年度	2007 (平成19) 年度
1	リスニング	リスニング	リスニング
2	長文読解	長文読解	長文読解 (比較的短い)
3	対話文読解	対話文読解	対話文読解
4	英作文	英作文	英作文
	長文読解	長文読解	長文読解

2. 小問数の推移

2005 (平成17) 年度	2006 (平成18) 年度	2007 (平成19) 年度
28 問	28 問	28 問

3. 出題割合の推移



4. 出題傾向分析と対策 昨年との問題レベル比較→昨年と同様

傾向	リスニング・対話文読解・長文読解・英作文という構成は例年と同様である。ただし、2007年度では長文読解が2題出題されていて、受験生にとっては時間配分が難しくなっている。長文読解問題の中にある英問英答問題は他府県に比べて比較的多い語数で答えなくてはならない場合が多い。
対策	15語～20語程度の英文を2文で書くことができるようになることが重要。英作文は内容的には難易度は高くなく中2までの学習内容で十分対応可能であるが、簡単な内容を多くの語を使って書き表すことは、結構難しいと感じることが多い。また、長文読解では全体の内容を読み取る力・指示語内容を具体的に表す力が必要とされ、国語力も重要になってくる。

5. 本年度入試の注目問題

4 What is a famous place to visit in Wakayama? Please tell me about it?

あなたなら、これに対してどのような返事を書きますか。15語以上の英文で書きなさい。1文で書いても2文で書いてもかまいません。

解答例

Shirahama is a very famous. In summer, a lot of people go there to swim in the beautiful sea.

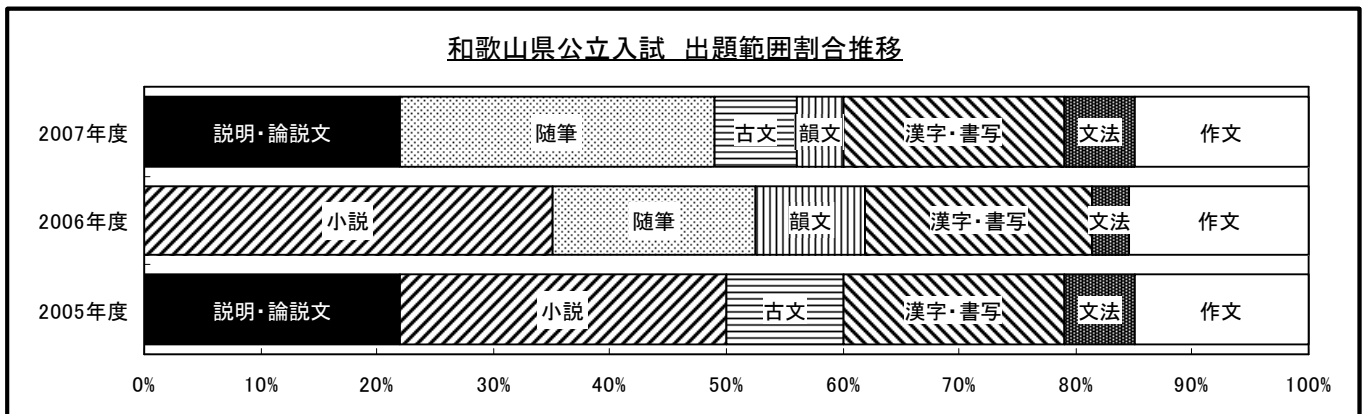
1. 大問別出題内容の変遷

	2005（平成17）年度	2006（平成18）年度	2007（平成19）年度
1	小説（伊集院静「ねむりねこ」）	小説（「あさのあつこ「バッテリーV」」）	論説文（宮沢和史「言の葉摘み」）
2	和歌・古文を含む随筆（ A ・ B いずれも米川千嘉子「四季のことば100話」）	和歌を含む随筆（長谷川権「古池に蛙は飛びこんだか」）	和歌・古文を含む随筆（ A 西村亨「王朝びとの四季」、 B 清少納言「枕草子」）
3	条件作文	条件作文	条件作文

2. 小問数の推移

2005（平成17）年度	2006（平成18）年度	2007（平成19）年度
26問	27問	24問

3. 出題割合の推移



4. 出題傾向分析と対策 昨年との問題レベル比較→やや難化

傾向	大問3題は例年通りだが、本年度は論説文、和歌・古文を含む随筆、条件作文の出題内容であった。熟語の組み立て（知識事項）や文法内容、和歌の切れ目等、総合的な国語力が問われている。文章読解では、文章中のことばを使つての記述で60字以内、70字以内もあり、文章を正しく読み取れるかがポイント。
対策	ジャンルを問わず幅広く文章読解の練習をつんでおくことが必要。普段より新聞・小説など文章に触れる機会を多くもつとよい。総合的な国語力を身につけるには、まず知識事項や文法については、定期テスト（中1～）の見直しをしておくこと。文章をまとめるには、文章中のキーワードをどう使って表現するかを意識して練習する必要がある。

5. 本年度入試の注目問題

あやのさんは、終わりの会の「1分間スピーチ」で、次のような問題提起をしました。これを読んで、あなたの考えを書きなさい。ただし、あとの条件に（1）～（3）にしたがうこと。

みなさんは「以心伝心」という四字熟語を知っていますか。「ことばによらず、心から心へ伝えること」という意味です。日本では古くから、この熟語に表されるような人と人との関係のもち方が価値あるものとされてきたようです。今でも、「まわりの様子や雰囲気から察すること、はっきりことばにしないことは、良いことだ。」とされています。

その一方で、外国の人からは、「日本人はあまり自己主張をしないので、何を考えているのかわからない。イエス、ノーの態度をはっきりさせるべきだ。」とされています。

この二つの意見について、みなさんはどう考えますか。

〔条件〕

- （1）二つの意見のどちらかの立場に立ち、あなた自身の体験を含めて書くこと。
- （2）原稿用紙の正しい使い方にしたがって書くこと。ただし、題名や自分の氏名は書かないこと。
- （3）八行以上、十行以内であること。

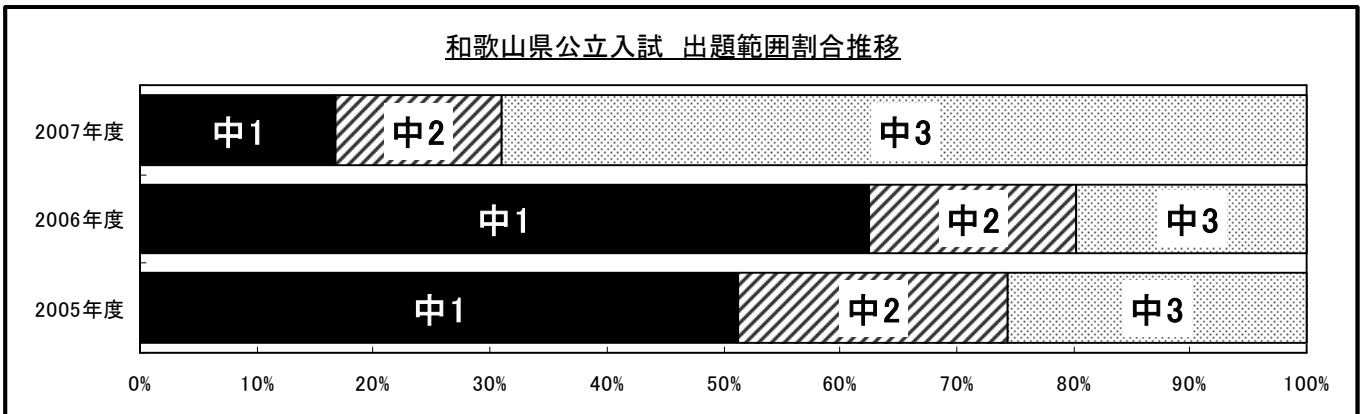
1. 大問別出題内容の変遷

	2005 (平成17) 年度	2006 (平成18) 年度	2007 (平成19) 年度
1	小問 (食物連鎖・環境・気体の性質)	小問 (火成岩・光・生物のつながり)	小問 (太陽・食物連鎖・電流・電池)
2	植物のはたらき (花のつくり・分類)	植物のはたらき (光合成・細胞)	細胞と生殖
3	身近な生物 (顕微鏡・小さな生物)	地球と宇宙 (太陽の高度)	天気の変化 (水蒸気・気圧・前線)
4	天気の変化 (天気の観測・水蒸気量)	化学変化 (酸化・化学変化と質量)	身のまわりの物質 (溶解度)
5	大地の変化 (地震)	運動とエネルギー (磁界・エネルギー)	運動とエネルギー (ふりこ)
6	身のまわりの物質 (気体・水溶液)		
7	化学変化 (質量)		
8	光 (光の屈折)		
9	物体の運動 (地震)		

2. 小問数の推移

2005 (平成17) 年度	2006 (平成18) 年度	2007 (平成19) 年度
43 問	33 問	42 問

3. 出題割合の推移



4. 出題傾向分析と対策 昨年との問題レベル比較→難化

傾向	<p>18年度から、物理・化学・生物・地学各1題と小問集合1題の計5題となっている。これに伴い小問数は少なくなった。全学年内容からまんべんなく出題されていて、基本的な実験・観察問題で構成されている。解答は、選択式より用語や文章の記述が多い。</p> <p>例年、多く出題されている短文記述が、今年度8問、作図問題が6問出題されおり、得点差が生じやすい問題内容となっている。</p>
対策	<p>出題範囲が広いため、不得意分野をなくす必要がある。また、実験の結果だけではなく、「なぜそうなるか」の理由を記述できるようにしておく必要がある。また、2分野について、図解を通じた正確な理解により、作図問題に対応する力を養うことが重要である。教科書改訂に伴う追加事項の学習もしておくべきである。</p>

5. 本年度入試の注目問題

3. 【問3】 海面上で気温26℃、湿度71%の空気が上昇するとき、約何mの高さで雲ができてはじめるか。ただし、気温と空気1m³中の飽和水蒸気量の関係は次の表のとおりとし、空気が100m上昇するごとに、気温は0.5℃ずつ低下するものとする。

気温(℃)	16	18	20	22	24	26
空気1m ³ 中の飽和水蒸気量(g)	13.6	15.4	17.3	19.4	21.8	24.4

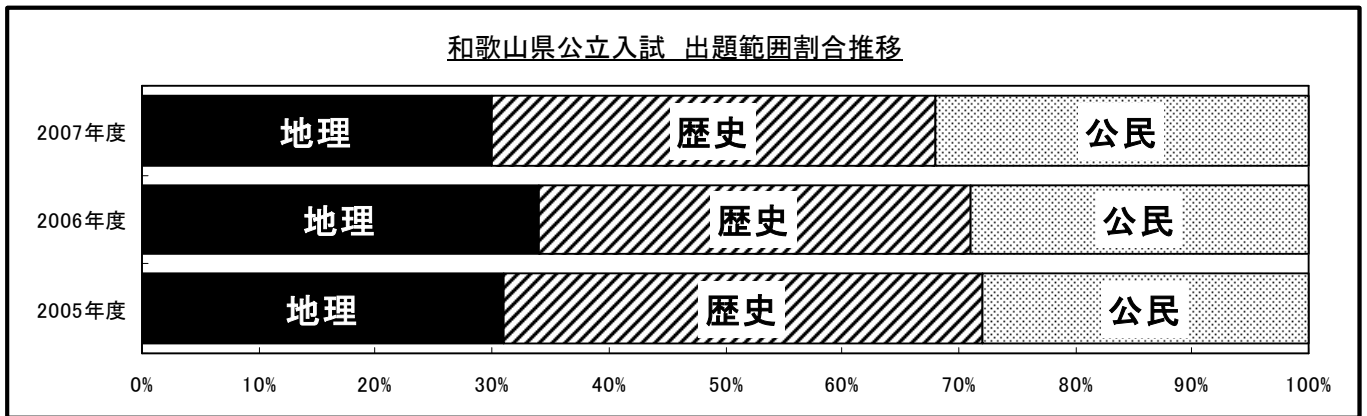
1. 大問別出題内容の変遷

	2005 (平成 17) 年度	2006 (平成 18) 年度	2007 (平成 19) 年度
1	世界の国々・世界の地域構成	世界の国々・世界の地域構成	世界の地域構成・国際社会
2	身近な地域・日本の地域構成	近世社会の発展・二度の大戦と日本	日本の地域構成・世界の地域構成
3	古代国家のあゆみ・武家政治の展開	古代国家のあゆみ・武家社会の展開	古代国家のあゆみ・武家社会の展開
4	現代の民主政治・国際社会	現代の民主政治	現代の民主政治
5	国民生活と経済	日本の地域構成・日本国憲法	現代の民主政治・国際社会

2. 小問数の推移

2005 (平成 17) 年度	2006 (平成 18) 年度	2007 (平成 19) 年度
39 問	38 問	37 問

3. 出題割合の推移



4. 出題傾向分析と対策 昨年との問題レベル比較→昨年と同様

傾向	出題形式は、すべて和歌山県に関連した調べ学習をテーマにした出題となっている。地理は現代の日本と世界の貿易をテーマにした出題や日本をさまざまな視点から見た問題が出題された。歴史は、弥生時代から戦後までの歴史の総合問題として出題されている。公民は、日本の政治・国際社会・環境問題が出題されている。文章記述問題は例年、多数出題されている。
対策	全分野で、地図や資料などを読みとって答える問題が出題された。特に、資料の読み取り問題は、各国・各府県の農産物・工業の特色を理解しておく必要がある。また、歴史資料 (図・絵) にも慣れておく必要がある。文章記述問題の出題については、資料を活用する問題もあり、上記の対策とともに理解していく。基本用語を解答できるだけでは不十分なので、用語を説明できるようにしておく必要がある。

5. 本年度入試の注目問題

- 定数4名の比例代表の選挙区で、各政党の得票数がA党1200票、B党720票、C党600票であるとき、各政党の当選者はそれぞれ何名になりますか、書きなさい。
- 文中の下線 (循環型社会) に関し、このような社会が必要とされているのはなぜですか。その理由を資源と環境に着目して簡潔に書きなさい。
- 文中の下線 (江戸時代) に関し、図2 (水路に沿って●印) は大阪の町の一部をあらわした略地図であり、●は、諸藩が設けた蔵屋敷の位置を示しています。蔵屋敷がその場所に設けられた理由を水路に着目して簡潔に書きなさい。

